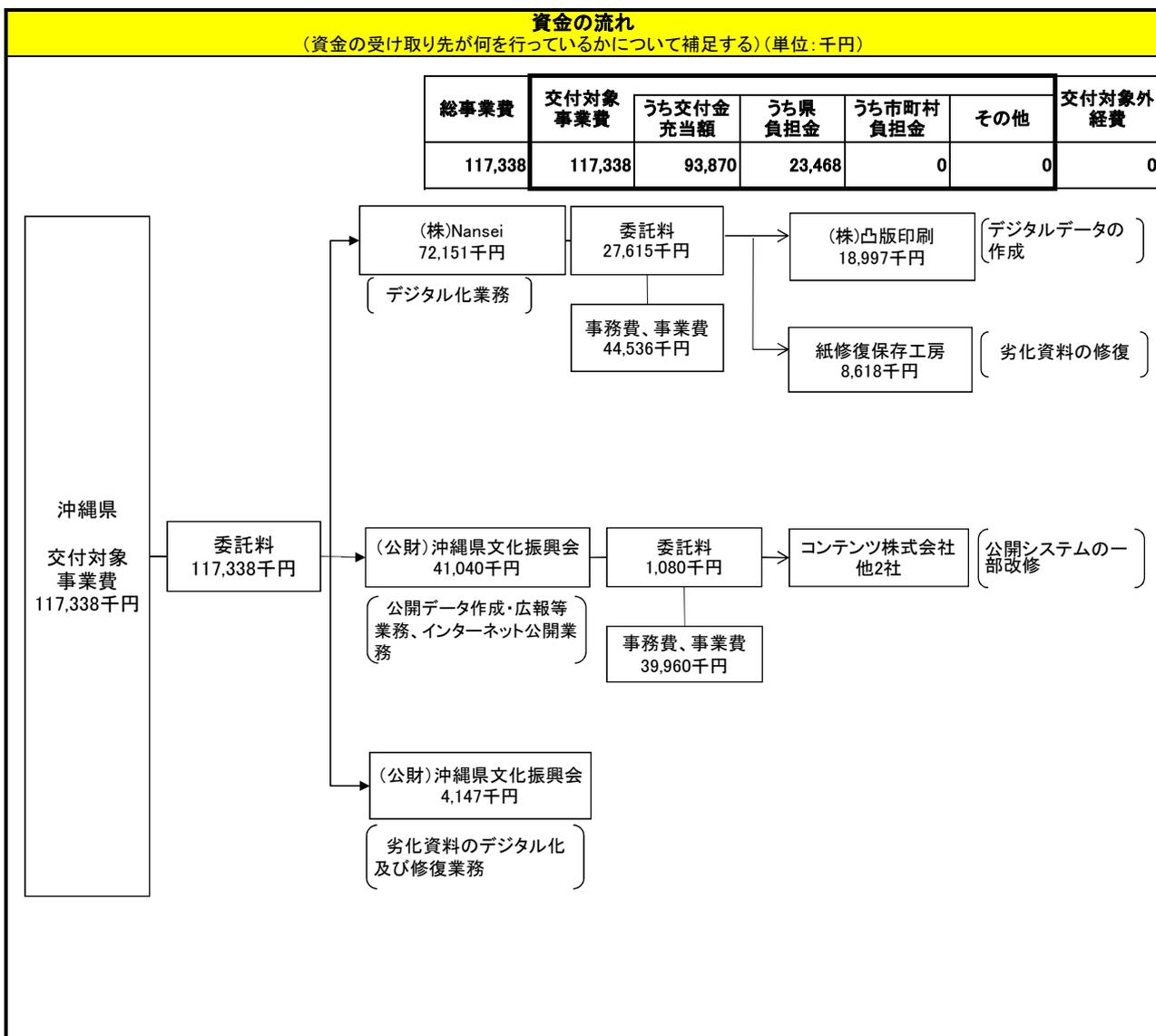


平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2 琉球政府文書デジタル・アーカイブズ推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	総務部総務私学課	事業実施(予定)年度	H25 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	県民等が琉球政府文書に対する理解を深めるため、琉球政府の紙文書・資料(劣化の激しい資料は、デジタル化の前に修復)をデジタル化し、ホームページで公開する。						
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(令和 年度)						
実施方法	□ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	145,044	—	130,425	—	117,385
		(b) 予算現額	168,204	—	130,425	—	117,385
		(c) 増減額(b-a)	23,160	—	0	—	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	168,204	—	130,425	—	117,385
	執行率(%) (B/A)	B. 執行済額	167,904	—	128,857	—	117,338
		うち交付金充当額	134,323	—	103,085	—	93,870
		C. 次年度繰越額	0	—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)	99.8%	—	98.8%	—	100%	
予算の状況の説明	<p>・平成30年度予算は、事業実施に係る委託料の経費を計上したところであり、平成29年度に比べ13,040千円減額となっているのは、デジタル化する簿冊数を減じたことによるものである。</p> <p>・執行率は100%であり、計画的に執行できた。</p>						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
	デジタル・データの作成	目標	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		実績	17,280簿冊	17,280簿冊	11,000簿冊	9,000簿冊	
	個人情報の確認・マスキング	目標	8,000簿冊	8,000簿冊	6,000簿冊	6,000簿冊	
		実績	8,040簿冊	8,318簿冊	8,557簿冊	8,513簿冊	
	達成状況説明	<p>・デジタル・データの作成は、事業の進捗を定期的に確認し目標値を達成した。</p> <p>・簿冊に含まれる個人情報の確認とマスキング処理についても、目標値を達成した。</p>					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(H25年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(R3年度)
	①公開したホームページの年間アクセス数	目標	—	5,300アクセス	12,000アクセス	26,000アクセス	—
		実績	—	40,319アクセス	32,059アクセス	24,267アクセス	—
	②琉球政府文書に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する	目標	—	—	—	80%	—
		実績	—	—	—	90%	—
	進捗状況説明	<p>①年間アクセス数は24,267アクセスであり、目標は達成できなかった。今後は、わかりやすい資料掲載に努めるとともに、利用拡大を図るためホームページ、テレビ、広報誌等を活用した周知手法の検討を行う。</p> <p>②琉球政府文書に対する理解が深まったか(80%以上)をアンケートで検証し、理解が深まったと回答した者が90%となり、目標を達成した。</p>					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>①簿冊毎の劣化状況に応じた修復方法は、定例会において随時確認していくことにより、円滑に事業が推進できた。 また、資料のデジタル画像の質が悪い場合は公開データに適さない場合もあり、再撮影や撮影要件の調整が必要であるため、最終的に保管・公開を行うこととなる公文書館指定管理者と引き続き連携していく必要がある。</p> <p>②公開資料については、利用者アンケートや閲覧実績等により利用者が多くと見込まれる資料を分析し、掲載の参考とした。 また、インターネットの普及に伴い、遠隔からの資料閲覧の利便性向上が求められることから、引き続き、利用者アンケートを実施し、多様なニーズに対応した資料公開を行う必要がある。</p>	<p>①デジタル画像については、利用者の利便性を考慮した画質(解像度、色調や形状等)となるよう、事業契約の仕様書で明記し、公文書館指定管理者と連携して保管・公開を行う必要がある。</p> <p>②公開資料の多様な利用を促進するため、県民等への周知手法の検討を行う必要がある。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>①効率的に業務を推進するため、進捗に合わせた撮影対象簿冊の選定や簿冊の形態により異なる撮影方法等について、県、事業受託者及び公文書館指定管理者間での確認体制の検討を行う。</p> <p>②公開する資料等については、わかりやすい資料掲載に努めるとともに、利用拡大を図るためホームページ、テレビ、広報誌等を活用した周知手法の検討を行う。</p>		



資金の 使途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、業務内容により、一般競争入札や、実績、専門性や知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業報告書等进行检查し、適正である事を確認した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

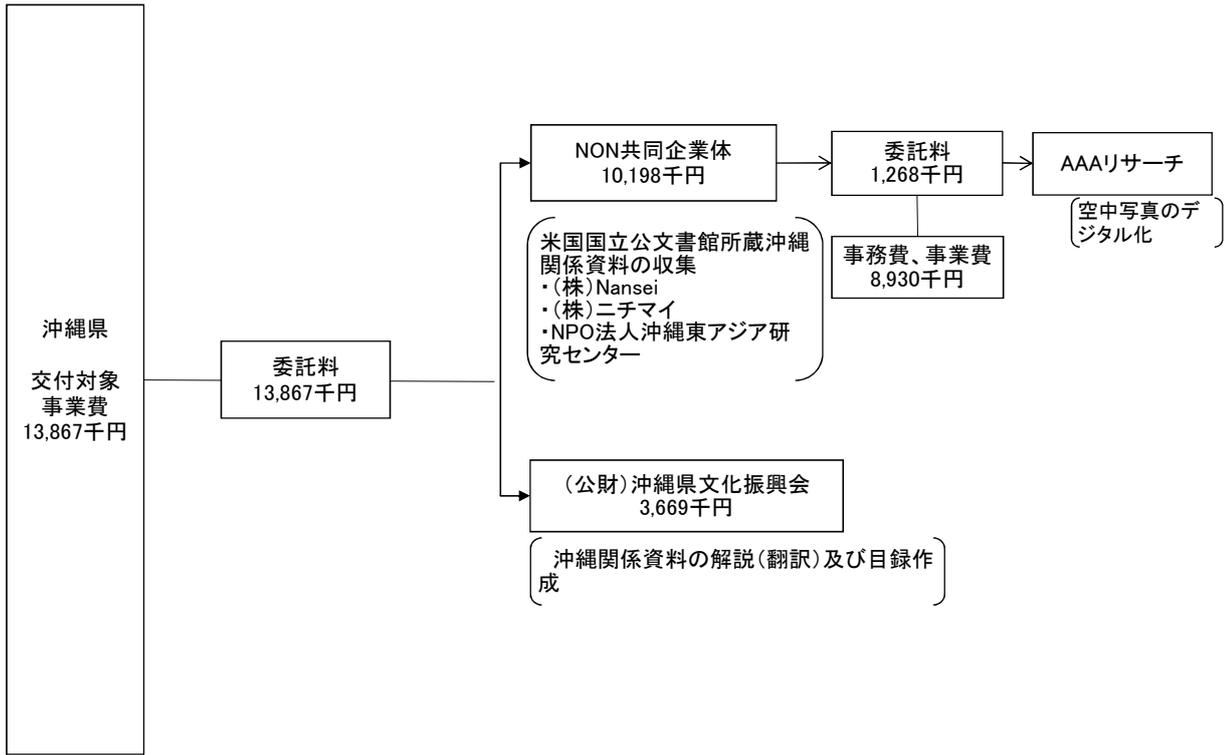
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3 在米沖縄関係資料収集公開事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	総務部総務私学課	事業実施(予定)年度	H29 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	県民等が沖縄戦及び米国統治時代等の沖縄関係資料に対する理解を深めるため、米国国立公文書館に所蔵されている沖縄関係の資料(写真や動画を含む)を収集し、翻訳・整理を行い、その後、ホームページで公開する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和3年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	-	-	18,325	-	13,878
		(b) 予算現額	-	-	18,325	-	13,878
		(c) 増減額(b-a)	-	-	-	-	0
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	-	-	18,325	-	13,878
	執行率(%) (B/A)	B. 執行済額	-	-	16,515	-	13,867
		うち交付金充当額	-	-	13,212	-	11,093
		C. 次年度繰越額	-	-	0	-	0
	予算の状況の説明		・県民等が沖縄戦及び米国統治時代等の沖縄関係資料に対する理解を深めるため、米国国立公文書館から写真等資料の収集及びインターネット公開のための目録作成に要する経費として委託料を計上した。 ・執行率は100%であり、計画的に執行できた。				
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	対象資料(写真や動画を含む)の収集		目標	-	-	-	6,300点
			実績	-	-	-	6,314点
達成状況説明		写真等の収集については、事業の進捗を定期的に確認し目標値を達成した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(H28年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(R3年度)
	対象資料(写真や動画を含む)の収集、翻訳整理の実施	目標	-	-	-	収集、整理する	-
		実績	-	-	-	収集、整理した	-
	【R3成果目標】 公開したホームページの年間アクセス件数	目標					219,000PV
	【R3成果目標】 沖縄戦及び米国統治時代等の沖縄関係資料に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する	目標					80%
進捗状況説明		沖縄戦及び戦後の米国統治に関する写真等6,314点をデジタル化して収集し、4,632点の目録・翻訳整理を行い、目標を達成した。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①県公文書館で所蔵・公開している既存写真等と整合が図れるよう、収集する写真等の複写仕様について、県、事業受託者及び県公文書館指定管理者の調整会議により確認し、収集を進めている。 また、米国国立公文書館の資料貸出申請の制限を考慮し、利用者ニーズの高い資料を優先的に収集する等、最終的に収集資料を運用する公文書館指定管理者と、引き続き連携していく必要がある。	①資料が計画どおり収集できるよう 米国国立公文書館の資料貸出及び利用環境の確認を行う等情報収集を徹底し、事業を推進する必要がある。また、写真・動画の県公文書館の公開基準への適合を十分に確認する必要がある。
	②インターネット公開に向け、利用者が理解しやすい内容となるよう、利用者アンケートの設問内容やホームページ上でのアンケート掲載場所について、公文書館指定管理者と調整等を行った。引き続き、アンケート実施に向けた検討を行い、利用者のニーズを把握に努めるとともに、資料のわかりやすい翻訳や解説の充実と、閲覧しやすい資料掲載方法を確認する必要がある。	②資料の解説(翻訳)については、資料閲覧状況や利用者アンケートを参考に分析するなど、理解促進につながるものとする必要がある。また、資料の公開にあたり、公文書館ホームページの改修や広報の方法等を確認・検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
<p>①事業の実施にあたり、公開に向けた写真・動画の収集・解説(翻訳)作成等に関する課題を共有し、対応策について協議するため、県、事業受託者及び公文書館指定管理者との協力体制の構築を図る。</p> <p>②資料の公開に向け、利用拡大を図るためのホームページ改修や、新聞、広報誌等を活用した周知手法の検討を行う。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額				交付対象外経費
		うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	
13,867	13,867	11,093	2,774	0	0	0



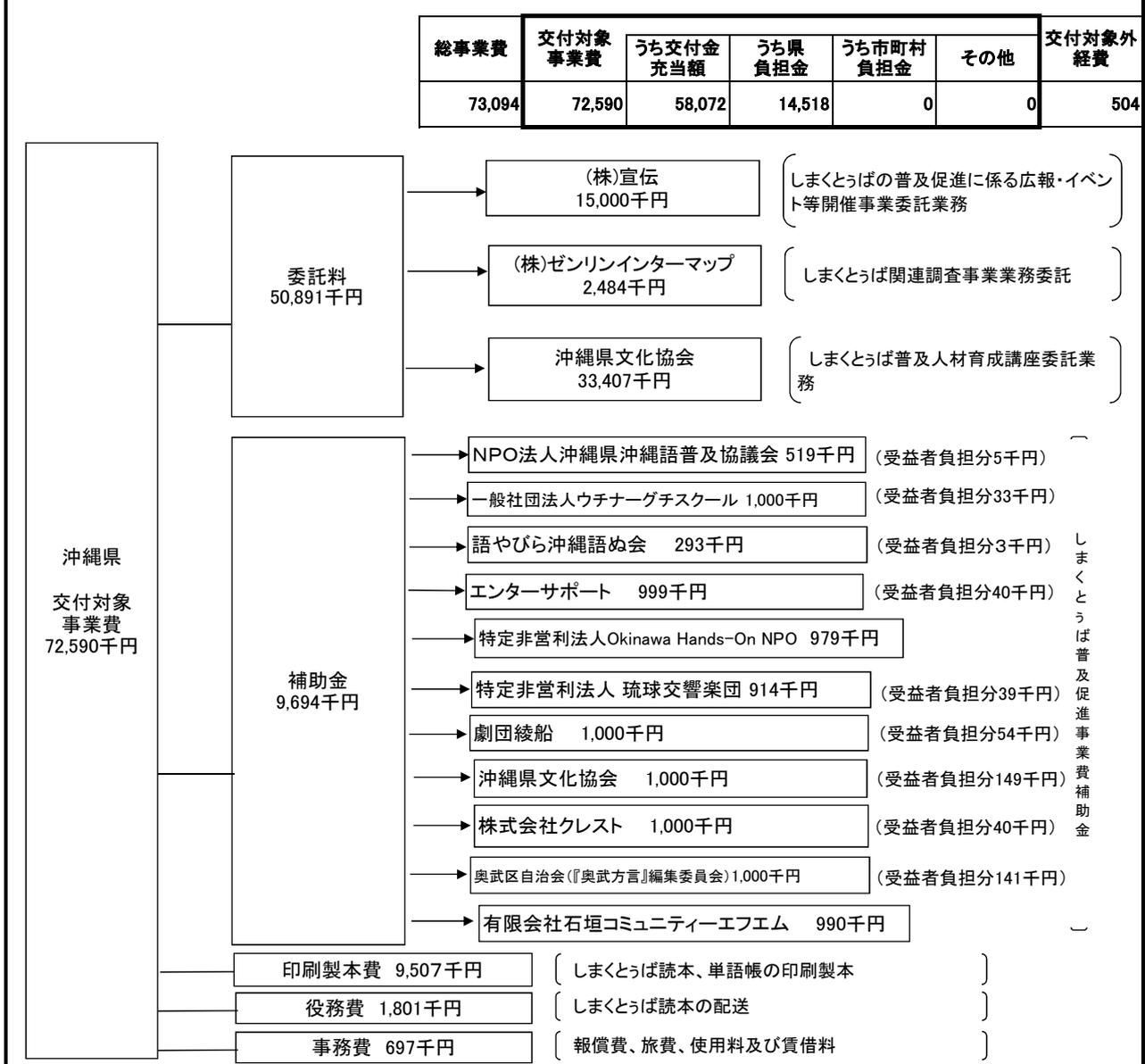
資金の 使途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、業務内容により、一般競争入札や、実績、専門性や知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	191	しまくとぅば普及継承事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部課名	文化観光スポーツ部文化振興課	事業実施(予定)年度	H26 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	しまくとぅばの普及・継承を図るため、人材養成講座等の開催や民間団体の取組みを支援する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	54,185	0	145,882	0	84,932
		(b) 予算現額	95,982	0	145,882	0	84,932
		(c) 増減額(b-a)	41,797	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		95,982	0	145,882	0	84,932
	B. 執行済額		91,690	0	131,585	0	72,590
	うち交付金充当額		73,352	0	105,268	0	58,072
	C. 次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		95.5%	#DIV/0!	90.2%	#DIV/0!	85.5%
予算の状況の説明		・執行率は85.5%で、報償費・旅費の執行残、需用費の入札残、委託料の入札残・執行残による。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	しまくとぅば人材養成講座の開催	目標	10地域	10地域	20地域	20地域	
		実績	10地域	9地域	24地域	19地域	
	民間団体への補助	目標	—	10件	10件	10件	
		実績	—	9件	12件	11件	
	【H29以前の成果目標】 普及功労者表彰	目標	—	10件	10件	—	
		実績	—	12件	11件	—	
	【H29以前の成果目標】 普及大使の任命	目標	—	—	20名	—	
		実績	—	—	80名	—	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村や地域の団体が行うしまくとぅばの講座を支援する「人材養成講座」の開催については目標値を下回っているものの、講師派遣を別途28件実施している。 ・民間団体への補助については、目標どおり実施することが出来た。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(25年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(一年度)
	しまくとぅばをあいさつ程度話せる人の割合	目標	—	—	—	64%	—
		実績	58.0%	54.1%	54.6%	49.8%	—
	進捗状況説明	「しまくとぅばを主に使う」、「しまくとぅばと共通語を同じくらい使う」、「しまくとぅばを挨拶程度使う」人の割合の合計である「しまくとぅばを挨拶程度以上話す」人の割合については伸び悩んでおり、平成30年度は計画値を達成できなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	しまくとぅば普及の中核的役割を果たす「しまくとぅば普及センター」を設置し、人材養成講座等を実施したが、しまくとぅば県民意識調査における、「しまくとぅばを挨拶程度以上話す割合」は伸び悩んでおり、今後はさらに実践的な取組が必要である。	しまくとぅば普及センターを中心に、文化関係団体等と連携を図りながら、より実践的な人材養成講座等を実施する必要がある。
今後の取り組み方針		
・しまくとぅばの普及に携わっている文化関係団体等とネットワークを構築するとともに、より実践的な人材養成講座を実施するほか、民間の取り組みを支援するなどして県民への普及を推進する。 ・また、若年世代に対して、まずはあいさつからしまくとぅばを使用してもらうため、学校での読み聞かせの実施や、クラブ活動の支援など普及のための仕組みを確立する。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先及び補助事業者については、入札方式、実績やノウハウなどを勘案した上で選定しており、妥当であった。 ・補助事業については、NPOなどが主な補助先であるが、補助率は8割となっており、2割は自己負担していることから負担関係は妥当であると考えられる。 ・委託額や補助額を確定するときには、事業目的達成の観点から、必要な経費だったかなどを検査した結果、適正だったと認められた。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	194	デジタルミュージアム推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	文化観光スポーツ部文化振興課 (博物館・美術館)	事業実施(予定)年度	H28 ~ R2 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	民話や方言の普及を図るため、無形文化遺産のひとつである伝承話について動画コンテンツを制作する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和2年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	9,284	—	6,990	—	19,685
		(b)予算現額	9,788	—	6,990	—	19,685
		(c)増減額(b-a)	504	—	0	—	0
		(d)前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A.計(b+d)	9,788	—	6,990	—	19,685
	B.執行済額		8,548	—	6,461	—	19,446
	うち交付金充当額		6,838	—	5,169	—	15,556
	C.次年度繰越額		—	—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)		87.3%	#VALUE!	92.4%	#VALUE!	98.8%
予算の状況の説明		・執行率は98.8%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	25話の動画コンテンツの制作	目標	—	—	—	完成件数 25話	
		実績	—	—	—	完成件数 25話	
	H29に制作した動画コンテンツ6話について移動展での上映会を開催	目標	—	—	—	上映会開催 1回	
		実績	—	—	—	上映会開催 1回	
	H29に制作した動画コンテンツ6話について館内上映会を開催	目標	—	—	—	上映会開催 1回	
実績		—	—	—	上映会開催 1回		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した伝承話音声資料について動画コンテンツ25話を制作し、目標値を達成した。 ・伊平屋村で開催した移動展で、H29年度に制作した動画の上映会を行い、目標を達成した。 ・当館で開催した学芸員講座で、H29年度に制作した動画の上映会を行い、目標を達成した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(R2年度)
	①動画コンテンツ(H29作品)を閲覧した方に、どの程度民話や方言に関する関心が高まったかを含め、事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標	—	—	—	80%	—
		実績	—	—	—	83%	—
	②移動展参加者数	目標	—	—	—	参加者数 136名	—
		実績	—	—	—	参加者数 494名	—
	③館内上映会参加者数	目標	—	—	—	参加者数 80人	—
		実績	—	—	—	参加者数 156人	—
【R2成果目標】 動画再生回数		目標	—	—	—	17,360回	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ①動画コンテンツ(H29作品)を閲覧した方に、どの程度民話や方言に関する関心が高まったか、事業のあり方等のアンケートを実施し、関心が高まった割合が83%と目標を達成した。 ②伊平屋村で移動展を開催し、会場及び小学校、福祉施設での上映会を行い、494名が参加・視聴し目標を達成した。 ③当館で開催した学芸員講座及び企画展で上映会を行い、156人が参加・視聴し、目標を達成した。 						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①アンケートを実施した結果、関心度は8割を超えたが、民話の理解度が6割だったため、理解度を向上させる必要がある。	①しまくとぅば、民話に対する理解を高める方策を検討する必要がある。
	②引き続き、学校や地域等で上映する機会を増やす必要がある。	②学校や地域の施設等へ当事業を周知し、上映機会を確保する必要がある。
	③引き続き、デジタル民話上映会を実施し、視聴者数を増やす必要がある。	③さらに多くの人が視聴するよう、上映会の方法・周知方法を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
①動画の上映及び学芸員の解説を行う等、民話及び「しまくとぅば」そのものに対する理解・関心が高まる取組を実施する。 ②学校や地域での上映のため、教員や公民館担当者等への周知や連携を強化する。 ③記者発表の実施や県の広報誌・広報番組を活用し、当事業で制作したデジタル民話動画について、周知活動を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
19,446	19,446	15,556	3,890	0	0	0


```

    graph LR
      A[沖縄県  
交付対象  
事業費  
19,446千円] --> B[委託料  
19,335千円]
      A --> C[事務費  
111千円]
      B --> D[丸正印刷(株)・NPO法人沖縄伝承  
話資料センター共同企業体  
19,335千円]
      D --- E["( デジタルミュージアム推進事業動画  
コンテンツ制作委託業務 )"]
      C --- F["( 旅費、使用料及び賃借料(レンタカー代) )"]
    
```

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、プロポーザル方式により適正に選定した。 ○費目・使途については、額の確定時において支出関係書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

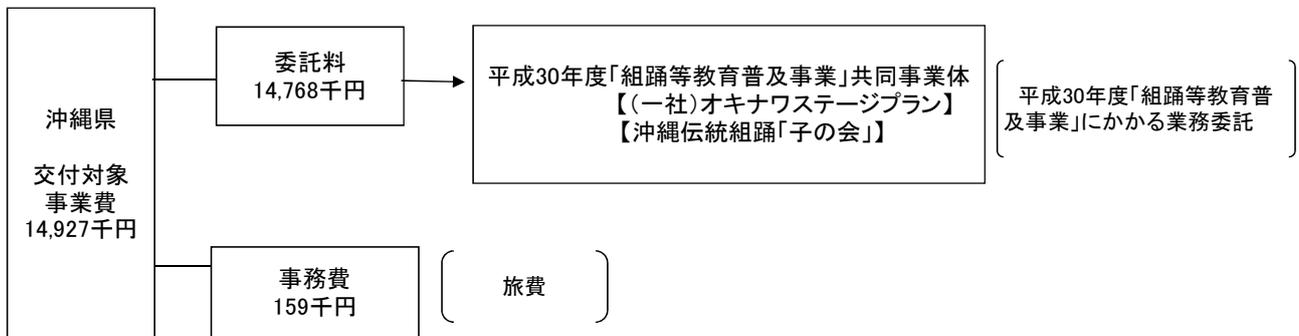
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	236 組踊等教育普及事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア				
担当部課名	教育庁 文化財課	事業実施(予定)年度	H26 ~ R2 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	離島地域における児童生徒の伝統芸能への理解を深めるため、離島地域の学校において、解説書を活用した事前学習やワークショップによる体験学習を行うとともに、組踊等の公演を鑑賞する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】		H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	22,660		7,605		15,000
		(b) 予算現額	22,660		7,605		15,000
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計 (b+d)	22,660	0	7,605	0	15,000
	B. 執行済額		22,601		7,605		14,927
	うち交付金充当額		18,081		6,084		11,942
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		99.7%	#DIV/0!	100.0%	#DIV/0!	99.5%
予算の状況の説明		・執行率は99.5%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	・児童生徒の組踊普及公演(鑑賞会)実施5回程度	目標	7回	7回	2回	5回	
		実績	8回	8回	2回	6回	
		目標					
		実績					
		目標					
実績							
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は、公演を6回実施した。 ・開催地は伊是名島(伊是名小学校、伊是名中学校)、石垣市民会館2回公演(八重山農林、八重山商工、八重山高校)、波照間島(波照間小中学校)、南城市(久高小中学校)、与那国島(与那国小、与那国中、久部良小、久部良中)である。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値	H28年度	H29年度	H30年度	目標値
	鑑賞した児童生徒が、事前研修やワークショップ、公演の鑑賞により組踊等の沖縄伝統芸能に関する理解を深めたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標	—	70.0%	70.0%	80.0%	—
		実績	—	89.0%	88.0%	92.7%	—
		目標					
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の鑑賞児童生徒数は、伊是名島97名、石垣島1,214名、波照間島46名、久高島21名、与那国島150名、合計1,528名。 ・内訳は、小学生218名、中学生96名、高校生1,214名。 ・鑑賞会後のアンケート調査によると1,130名(92.7%)の児童生徒が組踊の内容が理解できたと回答している。 ・事業は成果目標の80%を越えており順調に進んでいる。 ・時間割の調整が付かず、ワークショップの開催ができない学校があった。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・組踊等に係る児童生徒の理解・関心を高めるワークショップの実施について、伊是名小学校で2回、与那国小学校で2回、与那国中学校で1回実施することができた。実施に当たっては、開催校の要望もあり、低学年と高学年に分けて実施するなど工夫をした。全公演でのワークショップの実施には至っていないため、引き続き関係教育委員会や各学校に時間の確保ができるよう理解を求めめる必要がある。</p>	<p>・鑑賞校との事前調整において、ワークショップの内容を具体的に提示しながら効果性等を説明し、鑑賞校の要望も取り入れながら、鑑賞前の事前学習として設定できるよう時間割の調整をお願いする。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・より多くの児童生徒が組踊の3要素である唱え、音楽、舞踊について ワークショップで体験的な学習をすることにより、組踊等の沖縄伝統芸能に関する興味関心を高めることができるよう解説資料を作成等も工夫をする。</p> <p>・業務委託先と意見交流会を開催し、ワークショップ等に係る取組についてアンケートを実施し、検証等を行うことで今後の改善に繋げる。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
14,927	14,927	11,942	2,985	0	0	0



資金の使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は公募型プロポーザル方式により組織、実績、知識等を勘案した上で選定し、適切な事業が実施された。</p> <p>○委託事業者からの実績報告及び、支出の費目、使途を確認し、その内容から予算が適正に執行されていた。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	237	琉球王国外交文書等の編集刊行及びデジタル化事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	教育庁 文化財課	事業実施 (予定)年度 H24 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)			
事業内容	県民等の琉球王国外交文書に対する理解を深めるため、琉球王国の外交文書「歴代宝案」や交流史等に関する資料を編集・刊行するとともに、保存活用のためのデジタル化・テキスト化を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度（R3年度）						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】			H28年度	H28年度（繰越）	H29年度	H29年度（繰越）	H30年度
	予算の 状況	(a) 当初予算額	44,757		40,306		31,395
		(b) 予算現額	44,757		40,306		31,395
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	—		—		
		A. 計 (b+d)	44,757	0	40,306	0	31,395
	B. 執行済額		41,979		38,556		29,683
	うち交付金充当額		33,583		30,845		23,746
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率（%）(B/A)		93.8%	#DIV/0!	95.7%	#DIV/0!	94.5%
予算の状況の説明		執行率は94.5%であり、主に非常勤職員の退職等による報酬・旅費（費用弁償）の執行残によるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	歴代宝案編集委員会の開催1回及び歴代宝案編集委員会作業部会の開催2回	目標	編集委員会1回 作業部会2回	編集委員会1回 作業部会2回	編集委員会1回 作業部会2回	編集委員会1回 作業部会2回	
		実績	編集委員会1回 作業部会2回	編集委員会1回 作業部会2回	編集委員会1回 作業部会2回	編集委員会1回 作業部会2回	
	歴代宝案原稿作成1,000枚	目標	1500枚	1900枚	1350枚	1000枚	
		実績	1500枚	1700枚	1350枚	900枚	
進捗状況説明	・歴代宝案編集委員会作業部会で清代档案所蔵機関の専門家による意見聴取を行い、編集刊行に役立てることができた。 ・歴代宝案原稿作成枚数は、当初、原文から算出した翻訳依頼枚数が予想より少なかったため、目標を下回ったが、年度内に目標としていた範囲の翻訳執筆は完了した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (H23年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値 (R3年度)
	①歴代宝案の刊行2冊	目標	—			2冊	—
		実績	—			2冊	—
	②中琉歴史関係档案の刊行3冊	目標	—			3冊	—
		実績	—			3冊	—
	③琉球王国関係資料のデジタル化500枚	目標	—	700枚	749枚	500枚	—
		実績	—	1,383枚	1,231枚	746枚	—
	【R3 成果目標】 開設したホームページのアクセス件数	目標					5,280件
	【R3 成果目標】 閲覧者のうち、琉球王国外交文書(「歴代宝案」等)に対する理解が深まったか(80%)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する	目標					80%
	【H29以前の成果目標】 琉球王国外交文書等の編集刊行	目標	—	6冊	5冊	—	—
実績		3冊	8冊	7冊	—	—	
【H29以前の成果目標】 刊行物の関係機関(国内・国外)への配布	目標	—	900件	900件	—	—	
	実績	800件	928件	927件	—	—	
進捗状況説明	①歴代宝案の刊行は『歴代宝案訳注本第6冊』『歴代宝案参考資料20「歴代宝案」訳注本第6冊語注一覧表』を刊行するなど、目標を達成した。 ②『中琉歴史関係档案』咸豊朝3冊を刊行するなど、目標を達成した。 ③『歴代宝案訳注本第7冊』など琉球王国関係資料のデジタル化を746枚行い、目標を達成した。						

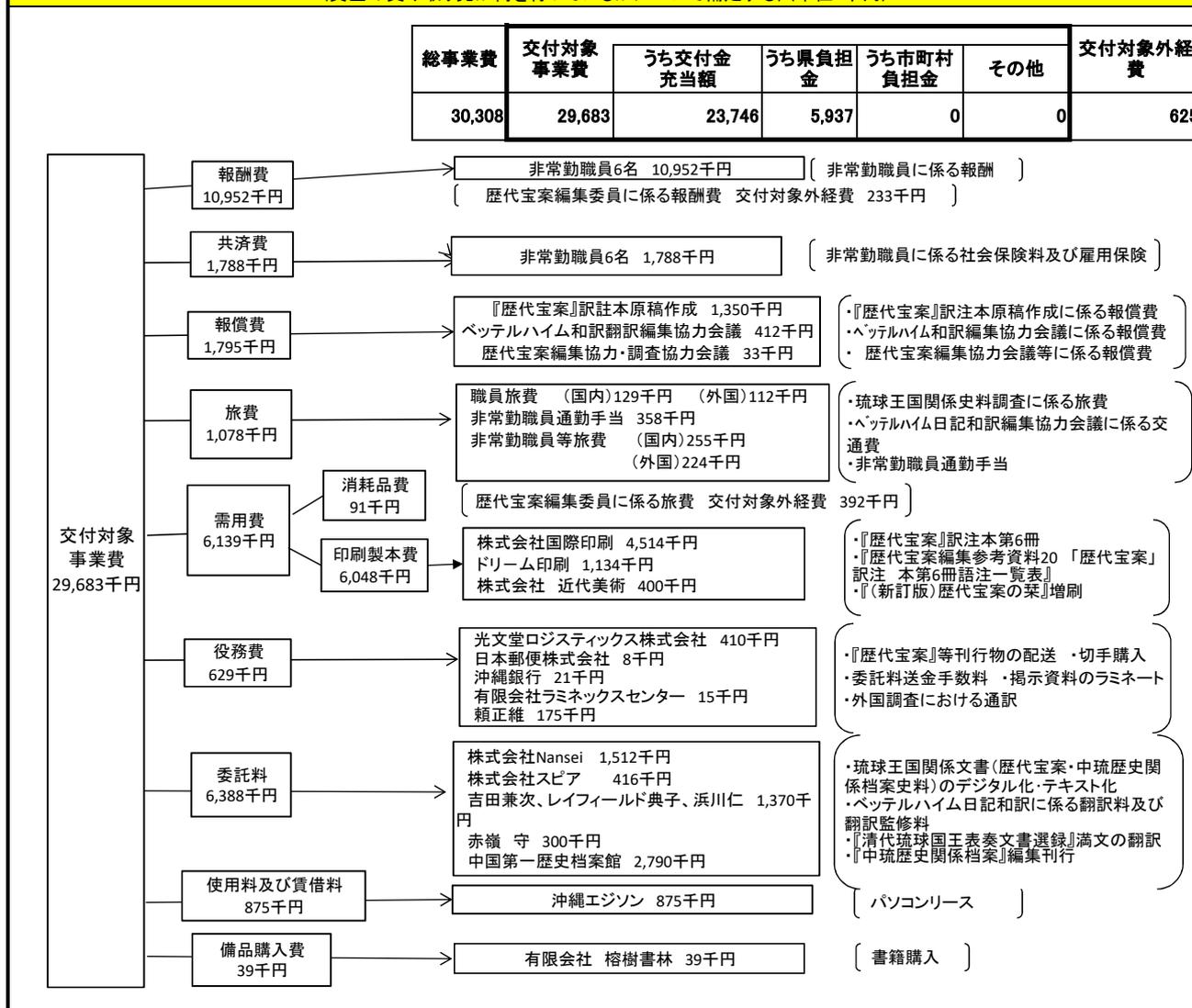
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①『歴代宝案校訂本第1冊』『歴代宝案校訂本第2冊』の活字化編集作業を進めているが進捗に課題がある。 ②ベッテルハイム日記翻訳編集の効率化のため、翻訳文の校閲委託を行い、校閲者から出された問題点についてさらに検討するため、編集協力会議を開いているが進捗に課題がある。 ③琉球王国関係資料のデジタル化は順調に進んでいるが、デジタル化・テキスト化した「歴代宝案」をウェブ公開するためのシステム構築に要する費用および維持管理費の負担が大きく、実現に課題がある。	①活字化編集の進捗の改善を図るため編集方法等について検討する必要がある。 ②ベッテルハイム日記編集協力会議の効率的な運営に向け、さらなる手立てを講じる必要がある。 ③システム構築のための仕様書の見直しを図る等、ウェブ開設に向けてさらに検討する必要がある。

今後の取り組み方針

①『歴代宝案校訂本第1冊』『歴代宝案校訂本第2冊』の活字化編集の進捗改善のため、編集人員の増加・原稿校閲の外部委託により編集の効率化をはかる。 ②ベッテルハイム日記翻訳編集会議について、日常的に編集協力会議構成員と事務局間で「校閲済み原稿データ」を共有し、事前に問題点を共有することで、議題の精選、円滑な会議運営を図り、翻訳原稿の編集作業を計画どおり進める。 ③ウェブシステム設計に関して専門家の意見を求めるなど仕様書の見直しを図り、令和3年度内の構築を目指す。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れの点検・評価	評価	点検項目	
資金の流れの点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は業務の特殊性・専門性・実績等を勘案し選定しており、妥当であった。 ・費目・使途については、事業目的に即して執行しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

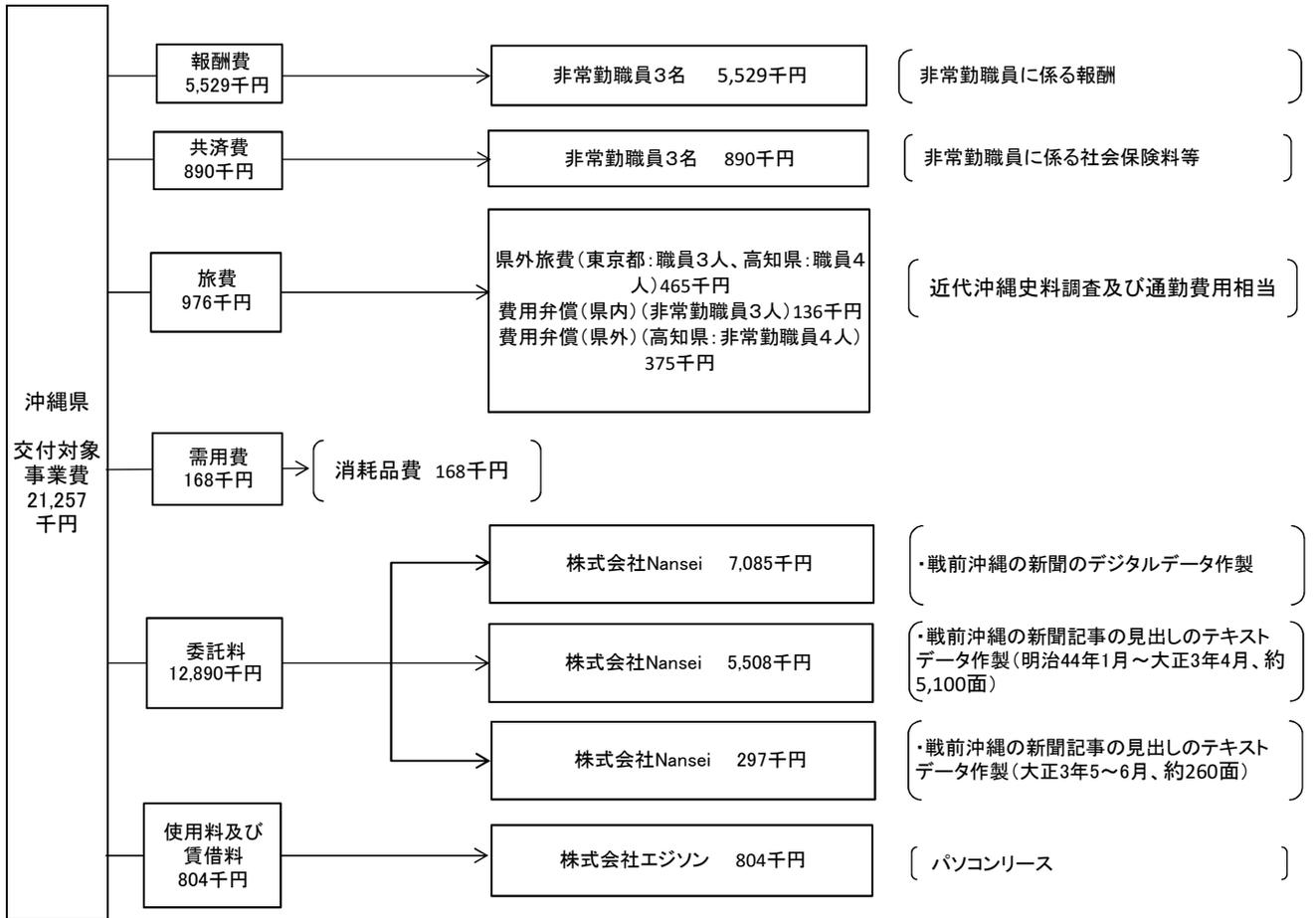
事業番号・事業名	238	近代沖縄史料デジタル化事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア				
担当部課名	教育庁 文化財課	事業実施 (予定)年度	H28 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる 環境づくり			
事業内容	県民の近代沖縄に対する理解を深めるため、沖縄戦で焼失した近代沖縄の史料の収集とデジタル複製による保存、インターネット公開を行う。							
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度（R3年度）							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）							
予算額・ 執行額 【単位：千円】		H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度		
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	20,143		28,093		21,533	
		(b) 予算現額	20,143		28,093		21,533	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0	
		(d) 前年度繰越額						
		A. 計 (b+d)	20,143	0	28,093	0	21,533	
	B. 執行済額		19,269		27,745		21,257	
	うち交付金充当額		15,415		22,196		17,005	
	C. 次年度繰越額				0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		95.7%	#DIV/0!	98.8%	#DIV/0!	98.7%	
予算の状況の説明		執行率は98.7%であり、概ね計画的に執行できた。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	近代沖縄史料のデジタル複製の調整・実施および新聞記事見出しのテキスト化等を行う。		目標	デジタル複製の調整・実施	デジタル複製の調整・実施	デジタル複製の調整・実施		
			実績	デジタル複製の調整・実施	デジタル複製の調整・実施	デジタル複製の調整・実施		
			目標					
		実績						
達成状況説明		・近代沖縄史料のデジタル複製について、国立国会図書館と調整を行い、実施することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値	H28年度	H29年度	H30年度	目標値 (R3年度)	
	新聞資料のデジタル化 約8,000面		目標	—	9,000面	12,000面	8,000面	—
			実績	—	9,500面	19,000面	8,100面	—
	【R3成果目標】 公開したホームページの年間アクセス件数		目標					5,280件
			実績					
	【R3成果目標】 閲覧者のうち、近代沖縄に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。		目標					80%
			実績					
進捗状況説明		・新聞原紙のデジタル複製について、所蔵機関との調整によって目標とする面数のデジタル化を達成することができた。 ・平成30年度までに、本事業全体の対象資料約39,000面のうちのおよそ94%となる約36,600面の画像データを作成でき、R3年のインターネット公開に向けて多くの画像データを作成できた。 ・沖縄毎日新聞(明治42~大正3年)について、著作権の保護期間内にある記事をリストアップすることができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①令和3年のインターネット公開に向け、令和2年までに新聞記事の残り約12,000面の見出しのテキストデータを作成するとともに検索キーワード等の作成をほぼ終える必要がある。 ②新聞画像のインターネット公開に向け、著作権処理を継続して行う必要がある。	①テキストデータを作成(委託)する対象資料の量をこれまで以上に増やす必要がある(H28:約2,000面、H29:約4,600面、H30:約5,350面)。記事見出しの校正や検索キーワード作成等の処理数を増やす必要がある。 ②著作者不明の著作物の使用について文化庁長官裁定制度を利用し、著作権の問題をクリアする必要がある。

今後の取り組み方針
①令和3年度のインターネット公開に向け、委託業務により約10,000面のデジタル化に取り組むとともに、検索キーワード作成等の早期処理に向けて、作業員数を増員する。 ②著作者不明の著作物の使用について文化庁長官裁定制度への申請を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
21,257	21,257	17,005	4,252	0	0	0



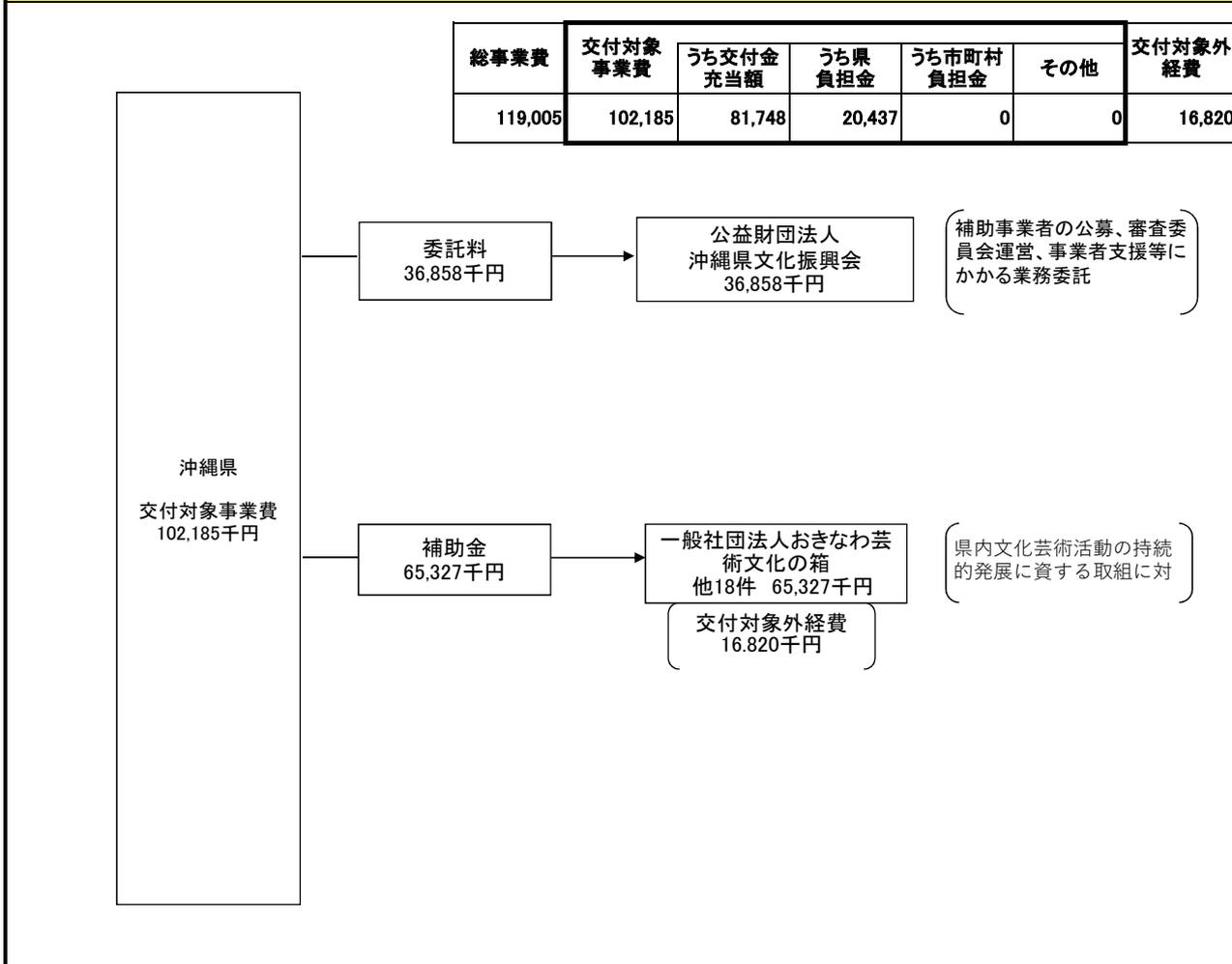
資金の流 れ、費 目・使 途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は一般競争入札で選定した(1件を除く)。業務の特殊性・専門性の高さもふまえて妥当であったと考えている。 ○費目・使途については、事業目的に即しており、額についても支出などに関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	192	沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ウ 第3章-1-(5)-ア	
担当部課名	文化観光スポーツ部文化振興課	事業実施(予定)年度	H29 ~ R3 年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化活動を支える基盤の形成 文化資源を活用したまちづくり Ⅲ-3-(2)	
事業内容	文化芸術活動の持続的発展を図るため、地域の伝統芸能など文化芸術活動に対して補助を行う。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和3年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額			108,965		105,935
		(b) 予算現額			100,827		105,935
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 8,138	0	0
		(d) 前年度繰越額			0		
		A. 計 (b+d)	0	0	100,827	0	105,935
	B. 執行済額				97,381		102,185
	うち交付金充当額				77,905		81,748
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	96.6%	#DIV/0!	96.5%
予算の状況の説明		・予算額は旅費、委託料、補助金を計上。 ・執行率は96.5%であり、概ね計画どおりに執行できた。補助金の執行残による不用額3,487千円が主である。不用の理由は補助事業19件の執行残によるもの。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	県内文化芸術活動の補助件数		目標	-	-	-	18件
			実績	-	-	16件	19件
達成状況説明		・県内文化関係団体を対象に、①文化関係団体の運営上の課題解決の取組、②文化芸術の普及及び魅力発信の取組、③文化資源を活用した地域活力創出の取組を公募し、①が8件、②が5件、③が6件の計19件を採択した。 ・採択された取組について、補助を行うとともに文化の専門人材によるハンズオン支援を行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(R3年度)
	文化芸術活動数が前年度より増加した団体の割合	目標	-	-	-	37.5%	-
		実績	-	-	-	57.9%	-
	文化芸術活動による享受者数が前年度より増加した団体の割合	目標	-	-	-	37.5%	-
		実績	-	-	-	84.2%	-
	文化芸術活動と他分野が連携した活動数が前年度より増加した団体の割合	目標	-	-	-	25.0%	-
		実績	-	-	-	73.7%	-
	【R3成果目標】 ①H30に補助を開始した団体について、補助終了翌年度において、前年度の文化芸術活動数を維持している団体		目標				40%
	【R3成果目標】 ②H30に補助を開始した団体について、補助終了翌年度において前年度の享受者数を維持している団体		目標				40%
	【R3成果目標】 ③H30に補助を開始した団体について、補助終了翌年度において、前年度の他分野との連携した活動数を維持している団体		目標				40%
進捗状況説明		・平成30年度に採択された19団体において、文化芸術活動数が前年度より増加した団体が11団体、文化芸術活動による享受者数が前年度より増加した団体が19団体、文化芸術活動と他分野が連携した活動数が前年度より増加した団体が14団体となり、上記の設定した成果目標をいずれも上回った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・応募件数28件に対して、採択件数は19件となっており、事業の周知を図りつつ、応募件数の増加や、応募企画の熟度向上を図る必要がある。</p>	<p>・事業説明会や応募期間中の個別相談以外にも事業趣旨の周知説明や応募企画のブラッシュアップを図る機会を増やす。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・本事業による支援事例をホームページで紹介し、支援事例集の配布を行う。 ・地域の多様な主体(企業、教育機関、医療・福祉機関、NPO等)向けに、文化芸術資源を活用する取り組みへの意欲喚起に向けたセミナーなどを開催する。</p>		

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○公益財団法人沖縄県文化振興会は、他の文化関係機関との連携も視野にいれて県の文化行政施策を実行できる唯一の団体であり、選定は妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○受益者負担については交付要綱で補助率1年目9/10、2年目8/10、3年目7/10と定めており、妥当と判断している。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業を円滑に遂行するために必要な経費であったかを支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	23 沖縄・奄美連携交流促進事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-エ			
担当部課名	企画部地域・離島課	事業実施 (予定)年度	H28 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	文化の発信・交流		
事業内容	世界自然遺産登録の候補地として一体的に評価されていることを契機に、両地域間の移動しやすい環境を構築し、両地域の交流を促すため、沖縄～奄美群島間において、陸上交通と比べて割高な航空路運賃及び航路運賃の低減を行う。						
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度 (年度)						
実施方法	□ 直接実施 □ 委託 □ 補助 ■ 負担 □ その他 ()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	88,837		83,573		111,418
		(b) 予算現額	74,452		84,973		91,714
		(c) 増減額(b-a)	▲ 14,385	0	1,400	0	▲ 19,704
		(d) 前年度繰越額					
	A. 計(b+d)		74,452	0	84,973	0	91,714
	B. 執行済額		69,011		82,953		81,765
	うち交付金充当額		55,209		66,362		65,412
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		92.7%	#DIV/0!	97.6%	#DIV/0!	89.2%
予算の状況の説明		・予算額は、沖縄～奄美間の航空路及び航路の運賃低減に係る事業者への負担金、実態調査委託料、事務費(旅費)を計上した。 ・執行率は89.2%であり、運賃低減の実績に応じて支出する負担金の実績確定に伴う不用額(9,667千円)が発生したこと等によるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	運賃を低減した路線における利用者数 航空路 約30,000人	目標			16,700人	22,000人	30,000人
		実績			16,551人	22,637人	20,496人
	運賃を低減した路線における利用者数 航路 約70,000人	目標			45,700人	70,000人	70,000人
実績				50,234人	67,056人	55,362人	
達成状況説明	・平成30年7月に、那覇-沖永良部(経由)-徳之島の新規航空路線が開設し、航空路は那覇と奄美群島を結ぶ4路線、航路においては那覇(本部)から奄美群島を結ぶ8航路で事業を実施し運賃低減を実現した。 ・平成30年度は、旅客数ピーク時における台風での欠航により、低減した運賃の利用者数は、航空路20,496人(対目標68.3%)、航路55,362人(対目標79.0%)と目標を達成することができなかった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (H26年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値 (R1年度)
	両地域間を旅行(移動)したすべての旅客者数(住民を含めた交流人口) 航空路及び航路 108,400人	目標	98,623人	101,800人	105,100人	108,400人	-
		実績	-	125,684人	128,986人	135,849人	-
	【R1成果目標】 両地域間を旅行(移動)したすべての旅客者数(住民を含めた交流人口)		目標				航空路及び 航路 135,400人
	進捗状況説明	・航空路及び航路において、平成30年度における両地域間を旅行(移動)したすべての旅客者数の実績は135,849人で、目標の108,400人を上回り、住民を含めた交流人口が順調に増加している。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・平成29年度の事後評価等を踏まえ、本事業の事業効果及び旅行者の実態を検証し、今後の事業のあり方について検討を行うため、委託による実態調査を実施することに加え、平成30年7月に開設された新規航空路線についても、移動しやすい環境を確保するため、運賃の低減を適用することが適当。</p>	<p>・実態調査の結果から、この事業により一定の経済効果が発現され、利用者の運賃の負担感も軽減していることから、現在の割引額での事業継続が適当であると考えられる。</p> <p>・上記と同様に、平成30年7月に開設された新規航空路線についても、この事業の効果が発現されるため、引き続き、運賃の低減を適用することが適当。</p> <p>・継続して、本事業により沖縄-奄美間において移動しやすい環境を確保するとともに世界自然遺産登録に向け、交流を促進するため、関係者との協力体制のもと、本事業を周知する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・両地域間の更なる交流促進のため、交通事業者の協力を得ながら、本事業の広報を実施する。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
81,765	81,765	65,412	16,353	0	0	0

沖縄県 交付対象 事業費 81,765千円	負担金 74,497千円	航空路事業者 31,999千円	1 琉球エアコミューター株式会社 23,550千円 2 日本エアコミューター株式会社 8,449千円	(航空路運賃低減に係る負担金)	
		航路事業者 42,498千円	1 マルエーフェリー株式会社 21,631千円 2 マリックスライン株式会社 20,867千円		(航路運賃低減に係る負担金)
		委託料 6,998千円	委託事業者 6,998千円	1 沖縄・奄美連携交流促進事業に係る実態調査等業務ケー・シー・エス・日本能率協会総合研究所共同企業体 6,998千円	
		事務費 270千円			(旅費)

資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○負担金について、事業者に対し、運賃低減に係る減収分を適正に交付した。 ○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案したうえで、選定しており妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

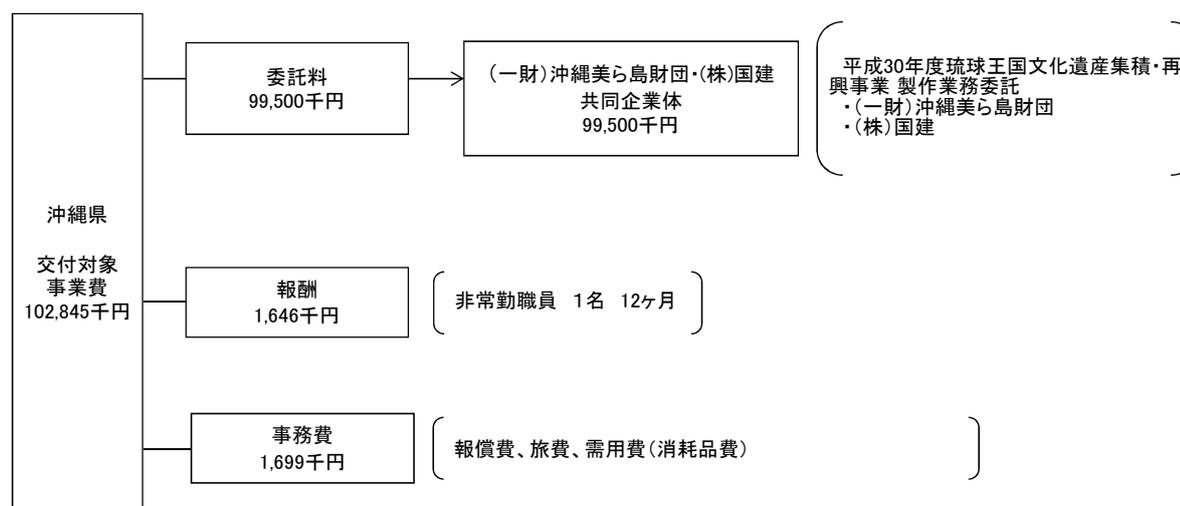
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	193	琉球王国文化遺産集積・再興事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア 第3章-1-(4)-エ			
担当部課名	文化観光スポーツ部文化振興課 (博物館・美術館)	事業実施 (予定)年度	H27 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環 境づくり、文化の発信・交流 Ⅲ-3-(2)		
事業内容	県民等に琉球王国文化の周知を図るため、琉球王国の崩壊や先の大戦で破壊された文化財の模造復元品(物)と制作過程で得られた手わざと知見(技)を、琉球王国文化として、報告会及び展示公開等により発信する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和元年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	152,695	—	184,206	—	104,202
		(b)予算現額	152,695	—	184,206	—	104,202
		(c)増減額(b-a)	0	—	0	—	0
		(d)前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A.計(b+d)	152,695	—	184,206	—	104,202
	B.執行済額		150,657	—	182,088	—	102,845
	うち交付金充当額		120,525	—	145,670	—	82,276
	C.次年度繰越額		0	—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)		98.7%	—	98.9%	—	98.7%
予算の状況の説明		・執行率は98.7%であり、概ね計画的に執行できた					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	模造復元製作の報告会	目標	—	—	報告会開催 1回	報告会開催 1回	
		実績	—	—	報告会開催 1回	報告会開催 1回	
	模造復元製作(8分野)の工程に基づき製作 業務の実施	目標	—	—	—	製作業務の実施	
		実績	—	—	—	製作業務を実施 した	
【H29以前の活動目標】 適正な製作を行うため8分野の監修者による 年2回の監修会議を行う	目標	—	監修者会議 24回	監修者会議 16回	—		
	実績	—	監修者会議 24回	監修者会議 16回	—		
達成 状 況 説 明	・平成29年度の復元品製作工程の記録及び知見に関する報告会を実施し、目標値を達成した。 ・模造復元製作(8分野)についても、目標の工程どおり実施することが出来た。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値 (R1年度)
	①模造復元品の報告会(H29完成品)の参加 者数	目標	—	—	参加者数 80人	参加者数 100人	—
		実績	—	—	参加者数 100人	参加者数 150人	—
	②模造復元品の完成	目標	—	完成件数 7件	完成件数 11件	完成件数 18件	—
		実績	—	完成件数 7件	完成件数 11件	完成件数 18件	—
	【R1成果目標】 展示会来場者数		目標				3,500人
進 捗 状 況 説 明	①平成29年度完成品に関する報告会(平成30年5月)を実施し150人を集めたほか、移動展での展示(平成31年1月)を行い448人の参加者を集め、目標値を達成した。 ②監修者会議での意見をふまえながら模造復元製作を実施し、18件を完成させ、目標値を達成した。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・模造復元の製作がR2年度までかかるため、発信方法を工夫しながら報告会や展示会を実施し、来場者の人数を増やす必要がある。 ・引き続き、素材や技法に関する新たな課題に対応しながら、復元品製作を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示会や報告会等、製作工程に合わせた効果的な発信方法を検討する必要がある。 ・模造復元品の製作にあたり、完成度を高めるため、監修者と製作者の連携を強化するとともに、工程管理に万全を期す必要がある。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の周知並びに王国文化の理解、活用の促進のため、製作の過程で得られた知見等を発表する報告会を引き続き行うほか、完成した復元品の展示会、シンポジウム、ワークショップを実施する。 ・復元品の完成度を上げるため、引き続き監修者会議により監修者の意見と製作者が綿密に連携しながら復元品の製作を行う。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
102,845	102,845	82,276	20,569	0	0	0



資金の 用途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業は、特命随意契約により選定し、随意契約理由は適正であった。 ○費目・使途については、額の確定時において支出関係書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

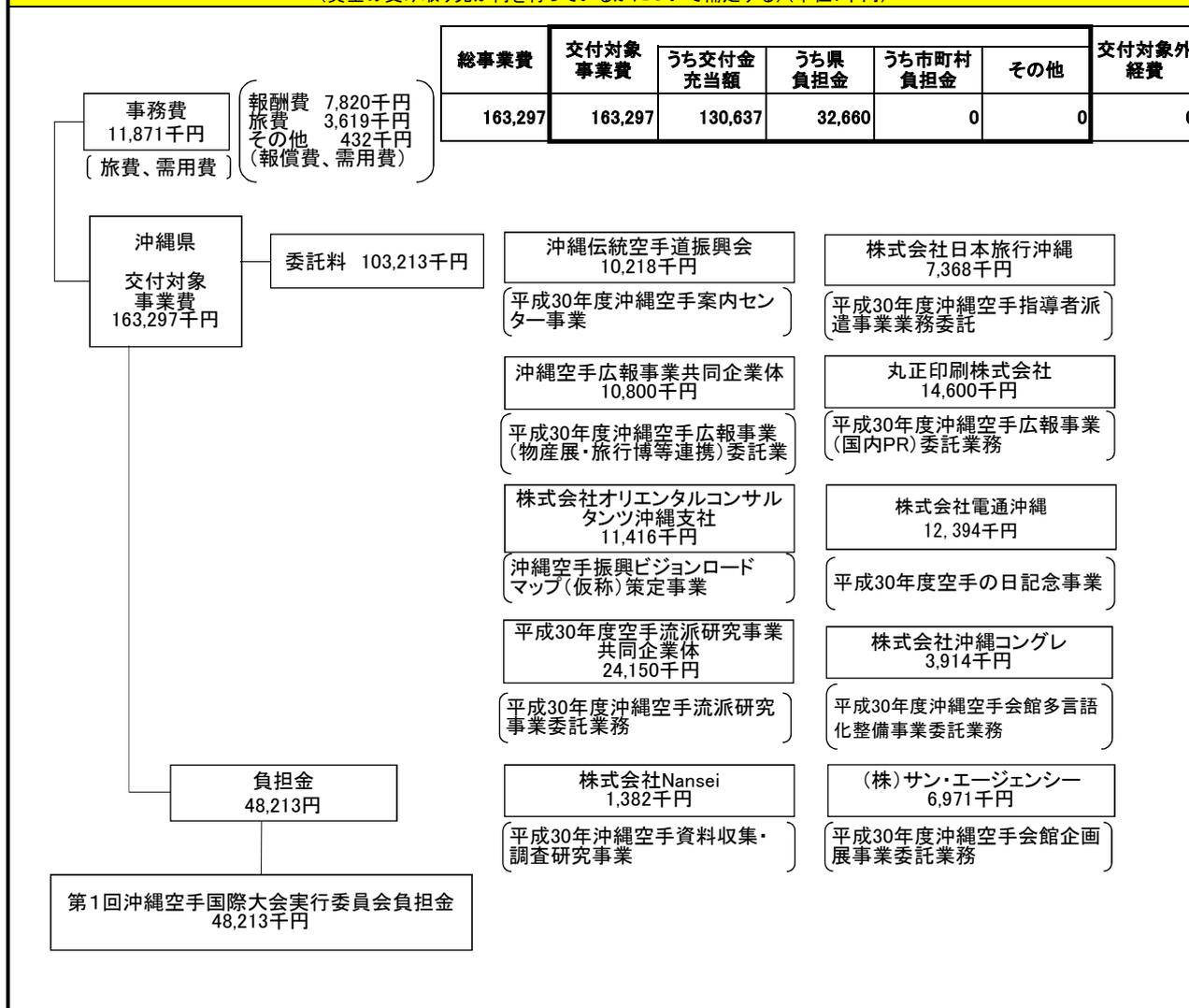
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	195	沖縄県空手振興事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-エ			
担当部署名	文化観光スポーツ部空手振興課	事業実施(予定)年度	H29 ~ R3 年度	文化の発信・交流			
事業内容	<p>沖縄空手の発展及び普及を図るため、</p> <p>①「沖縄空手振興ビジョンロードマップ(仮称)」を策定する。</p> <p>②各流派が分かる多言語(英語、フランス語、スペイン語)の解説書を作成する。H30は「剛柔流」の解説書を作成し、国内外の関係者及び空手団体、国内の公立図書館等に配付する。</p> <p>③海外・国内に指導者を派遣するほか、空手の日において演武祭を開催する。</p> <p>④第1回沖縄空手国際大会(平成30年8月1日～7日までの間)を開催する。</p> <p>⑤沖縄空手に関する各種問合せに対応する案内センターを開設するとともに、県内町道場での稽古を希望する国内外の空手愛好家を当該町道場につなぐワンストップ機能を構築する。</p> <p>⑥沖縄空手会館を拠点とする沖縄空手の情報発信、国内外のメディア媒体、県内の世界的有名空手家の国内外物産展・旅行博等への派遣等、広報を実施する。</p> <p>⑦県内外の空手に関する新聞資料を収集・整理を行い、沖縄空手会館において新聞資料を公開する。</p> <p>⑧沖縄空手の流派である「剛柔流」を中心とした企画展を開催する。</p> <p>⑨沖縄空手会館において、映像シアター、展示の多言語音声及び展示解説文の多言語リーフレットを整備する。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度 (年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額			247,063		170,751
		(b)予算現額			247,063		170,751
		(c)増減額(b-a)			0		0
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)			247,063		170,751
	B. 執行済額				230,536		163,297
	うち交付金充当額				184,429		130,637
	C. 次年度繰越額				0		0
	執行率(%) (B/A)				93.3%		95.6%
予算の状況の説明		・沖縄空手を振興するため、平成29年度から引き続き、空手関係イベントの開催等に必要な委託料等を計上した。 ・執行率は95.6%であり、概ね計画的に執行できた。一方、不用額については、委託料に執行残が発生したことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	①沖縄空手振興ビジョンロードマップ(仮称)の策定	目標	-	-	-	策定実施	
		実績	-	-	-	策定実施	
	②各流派の調査、研究を行い、多言語(英語、フランス語、スペイン語)の解説書を作成	目標	-	-	-	解説書の作成	
		実績	-	-	-	解説書の作成	
	③-1沖縄伝統空手道振興会等の空手関係団体と連携し、海外指導者派遣(2か国)、国内指導者派遣(1都道府県)を行う。	目標	-	-	-	・指導者派遣 ・演武祭を実施	
		実績	-	-	-	・海外2カ国、国内1地域に指導者を派遣した ・奉納演武、記念演武祭を実施した	
	③-2空手の日において演武祭を開催する。	目標	-	-	-	国際大会の開催実施	
		実績	-	-	-	国際大会の開催を実施した	
④第1回沖縄空手国際大会の開催	目標	-	-	-	案内センターの運営を実施		
	実績	-	-	-	案内センターの運営を実施した		
⑤空手案内センターの運営	目標	-	-	-	案内センターの運営を実施した		
	実績	-	-	-	案内センターの運営を実施した		

活動目標 (指標) 及び達成状況	⑥空手発祥の地沖縄としての認知度の向上を図る取り組みを行う。	目標	-	-	-	認知度向上の取り組み	
		実績	-	-	-	認知度向上に取り組んだ	
	⑦沖縄空手への理解を深めるため、県内外の新聞資料の収集・整理を行う。	目標	-	-	-	新聞資料の収集・整理	
		実績	-	-	-	新聞資料の収集・整理を行った	
	⑧沖縄空手に対する理解を深めるため、様々なテーマを取り上げた企画展を開催する。	目標	-	-	-	企画展を開催	
		実績	-	-	-	企画展を開催した	
達成状況説明	⑨沖縄空手の歴史・文化等の情報を世界に発信するため、多言語化を行う。	目標	-	-	-	多言語化の実施	
		実績	-	-	-	多言語化を実施した	
達成状況説明	活動目標の細事業について、目標に沿った事業の実施を行った。 ⑥空手発祥の地沖縄としての認知度の向上を図る取り組みとして、国内イベント6カ所に参加し、東京では演武会開催を実施した。 ⑦沖縄空手への理解を深めるため、新聞記事541件を収集し公開、展示用パネルを6枚作成を行った。 ⑧沖縄空手に対する理解を深めるため、企画展「剛柔流祖宮城長順」を開催した。 ⑨沖縄空手の歴史・文化等の情報を世界に発信するため、展示解説文等のイタリア語、ポルトガル語化を実施した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値 (〇〇年度)
	①沖縄空手振興ビジョンロードマップ(仮称)の策定完了	目標	-	-	-	策定完了	-
		実績	-	-	-	策定完了	-
	②国内外の配布先に対し、流派解説書の活用により、沖縄空手の流派に対する認識が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標	-	-	-	80%以上	-
		実績	-	-	-	87%	-
	③-1派遣先で指導した者に対し、沖縄空手に対する認識が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する。 ③-2演武祭来場数 2,400人	目標	-	-	-	①80%以上 ②2,400人	-
		実績	-	-	-	①86% ②2,400人達成	-
	④沖縄空手国際大会の期間中(延6日間)における参加者数 延6,000人	目標	-	-	-	6,000人	-
		実績	-	-	-	9,872人	-
	⑤-1空手案内センターの対応について、満足したか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。 ⑤-2空手案内センターを通じた町道場等への来訪者数 238人	目標	-	-	-	①80%以上 ②238人	-
		実績	-	-	-	①88% ②681人	-
	⑥-1空手関係来訪者数 6,900人 ⑥-2イベント開催都道府県における「空手発祥の地沖縄」の認知率 38.0%	目標	-	-	①1,000人	①6,900人 ②38%	-
		実績	-	-	①6,453人	①7,169人 ②34%	-
	⑦新聞資料利用者に対し、沖縄空手に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標	-	-	-	80%以上	-
		実績	-	-	-	100%	-
	⑧-1企画展示閲覧者数(資料室入場者数) 20,000人 ⑧-2閲覧者に対し、沖縄空手に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標	-	-	-	①20,000人 ②80%以上	-
		実績	-	-	-	①13,980人 ②93%	-
	⑨-1多言語による解説、リーフレットにより、沖縄空手の歴史・文化に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。 ⑨-2多言語端末の利用回数 420回	目標	-	-	-	①80%以上 ②420回	-
実績		-	-	-	①89% ②652回	-	
進捗状況説明	・沖縄空手を総合的に振興する各種委託事業を実施し、沖縄空手の保存・継承・発展に向けた沖縄空手振興ビジョンロードマップの策定を完了した。また第1回沖縄空手国際大会を開催し、50の国と地域から延べ9,872人の空手家が参加した。 ⑥-2イベント開催地での「空手発祥の地・沖縄」認知率については、サンプル数が少なく精度が低いと考えられるため、調査設計を再考する必要がある。 ⑧-1企画展示閲覧者数(資料室入場者数)については、広報の取り組み期間が短かったため、今後はより長く広報活動を行う必要がある。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・平成31年3月に沖縄空手振興ビジョンロードマップを策定し、今後は、行政、空手関係者、経済界等がこれまでに以上に連携して「空手発祥の地・沖縄」を広く発信し普及・発展を図るとともに、指導者・後継者を育成し保存・継承等を図る必要がある。</p> <p>・沖縄空手を国内外に発信する拠点となる「沖縄空手会館」を中心とした沖縄空手の振興に向けた事業展開に取り組む。</p> <p>・空手が2020年東京オリンピックの正式種目となったことから、「空手発祥の地・沖縄」を世界に発信する絶好の機会と捉え、より一層効果的な事業の推進に取り組む。</p>	<p>・沖縄を発祥の地とする空手の保存・継承・発展を図るため、20年後の目指すべき将来像を描いた「沖縄空手振興ビジョン」を平成29年度に策定し、平成30年度はビジョンの具体的な工程等となるロードマップを策定した。今後は、ビジョンの実現に向けて、行政、空手関係者、経済界等がこれまでに以上に連携して沖縄空手を広く発信し普及・発展を図るとともに、指導者・後継者を育成し保存・継承等を図る。</p>
	今後の取り組み方針	
	<p>・沖縄を発祥の地とする空手の保存・継承・発展を図るため、20年後の目指すべき将来像を描いた「沖縄空手振興ビジョン」を平成29年度に策定し、平成30年度はビジョンの具体的な工程等となるロードマップを策定した。今後は、ビジョンの実現に向けて、行政、空手関係者、経済界等がこれまでに以上に連携して沖縄空手を広く発信し普及・発展を図るとともに、指導者・後継者を育成し保存・継承等を図る。</p>	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者については、法令に基づき、公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

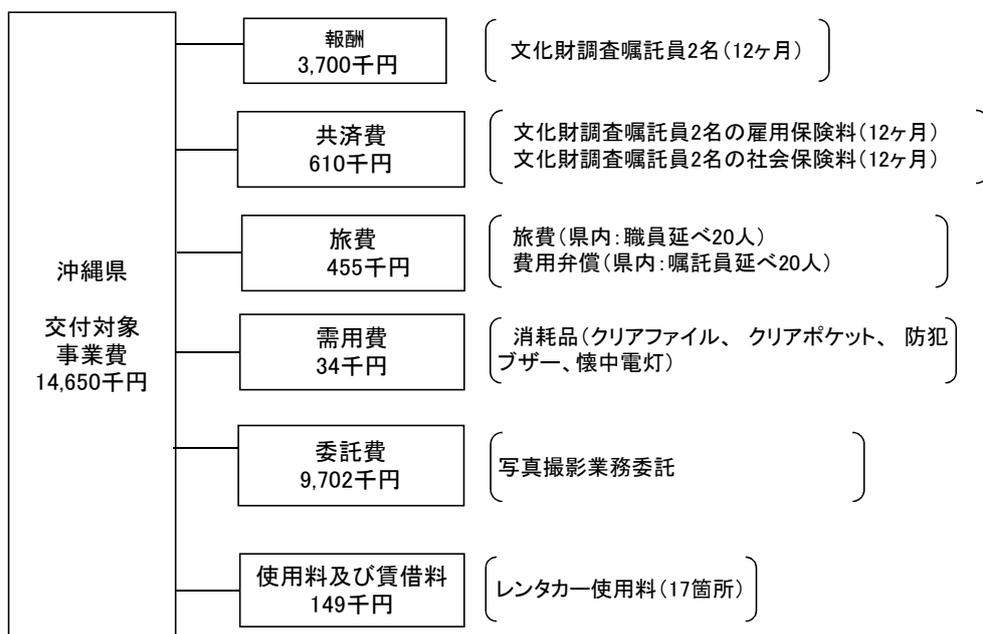
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	235 みんなの文化財図鑑刊行事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(4)-エ		
	教育庁文化財課		事業実施(予定)年度	H26 ~ R3 年度	文化の発信・交流		
担当部課名					III-3-(2)		
事業内容	・沖縄の歴史・文化への普及・啓発を行うため、国指定文化財、県指定文化財、市町村指定文化財を紹介する書籍を刊行する。刊行後は、県内の学校及び公立図書館を中心に配布するとともに、ハンドブック版については、観光客へのサービスとして世界遺産などの文化財と関連する施設に配布し、目に触れるようにする。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R3年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】			H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	12,640		19,223		15,778
		(b) 予算現額	12,640		19,223		15,778
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	—		—		
		A. 計(b+d)	12,640	0	19,223	0	15,778
	B. 執行済額		9,468		18,579		14,650
	うち交付金充当額		7,574		14,863		11,720
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		74.9%	#DIV/0!	96.6%	#DIV/0!	92.9%
予算の状況の説明		・予算額は刊行のためのデザイン、編集、印刷、製本にかかる委託の経費を計上したところである。 ・執行率は92.6%となっており、旅費の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	図鑑刊行	目標			1分野	1分野	
		実績			1分野	1分野	
	写真収集	目標		221件	114件	60件	
		実績		242件	141件	63件	
達成状況説明	・実施計画により刊行目標を1分野とし、目標どおり1分野の刊行をおこなった。 ・文化財図鑑に掲載する写真収集目標を60件とした。目標に対して64件の写真を収集することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(R3年度)
	『文化財図鑑』(埋蔵文化財編)の刊行	目標	—	—	—	1分野	—
		実績	—	—	—	1分野	—
	【R3成果目標】 『文化財図鑑』有形文化財編の刊行	目標	—	—	—	—	1分野
		実績	—	—	—	—	—
	【平成29年以前の成果目標】 『文化財図鑑』(史跡・名勝編)の刊行	目標	—	—	1分野	—	—
		実績	—	—	1分野	—	—
	【平成29年以前の成果目標】 『文化財図鑑』5分野(史跡名勝、埋蔵文化財、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、天然記念物)の写真収集	目標	—	221件	114件	—	—
		実績	—	242件	141件	—	—
	進捗状況説明	刊行予定の図鑑は5分野とハンドブック編である。今年度は実施計画により目標どおり1分野(埋蔵文化財編)の刊行をおこなった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①これまでも文化財の普及書は刊行されているが、説明が専門的であることから内容が分かりづらい。そのため、義務教育修了年限である中学3年生の学力でも理解できる内容や構成を検討し、一般的な人にも分かる内容にする必要がある。</p> <p>②刊行後は、アンケートを実施、内容を検証して次年度以降発刊予定の文化財図鑑に反映する必要がある。</p>	<p>①児童生徒が理解できる表現を検討しつつ、より知識のある読者でも楽しめる内容・構成を検討する。</p> <p>②内容の検証については、普及書を配布した公立図書館と協力していく必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>文化財に関する正確な情報を発信とともに、親しんでもらうために</p> <p>①刊行した図鑑を検証し、用語集など本文の内容を補助する記載を充実する。</p> <p>②文化財図鑑を配布した公立図書館との連携を図り、文化財図鑑を活用してもらう。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
14,650	14,650	11,720	2,930	0	0	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定した。</p> <p>○嘱託職員は、ハローワークをとおして行い適切に募集した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	